

**デイ・サービスセンター アポロ園**  
**第1回 地域密着型デイサービス運営推進会議 議事録**

開催日時	平成30年9月25日(火) 10時00分～11時00分	
開催場所	デイ・サービスセンター アポロ園 相談室1, 2	
参加者	ご利用者・ご利用者家族	金澤忠雄 様 金澤とし子 様
	地域住民代表	山手北光町内会会長 結城正敏 様 民生委員 松尾角雄 様
	所在地管轄職員	山手地域包括支援センター 北川宜尚
	デイ アポロ園職員	施設長 大沢貢
		事務長 加藤芳紀
		生活相談員 浅野目聡 生活相談員兼事務職員 大沢貢亮
司会進行	生活相談員	浅野目聡
書記	生活相談員兼事務職員	大沢貢亮

**【議事録】**

**1. 開会の挨拶、施設長挨拶**

平成30年度より、地域密着型通所介護へ移行したことにより、運営推進会議開催が義務化されました。今回、初回ですので、社会福祉法人 山手の里の事や日頃の運営内容をご説明させていただき、また、地域の問題を提起いただきながら、今後の手がかかりとなることを話していきたい。

**2. 運営推進委員紹介(生活相談員より)**

**3. 社会福祉法人 山手の里 沿革(施設長より)**

元々、苫小牧市山手町という土地は、佐羽内沼(佐羽内氏が所有)という沼でした。苫小牧川が氾濫しやすいため、苫小牧市の港開発で出た土砂を佐羽内沼に埋め立てしようという話があり、川の氾濫と苫小牧市の発展に寄与するため、埋め立てに協力しました。埋め立て後、佐羽内氏より役立つものを作ろうという話があり、現理事長が社会福祉法人を設立。老人と子供のお役に立ちたいとの思いから軽費老人ホームを設立。そして、幼老一体ということで保育園設立。次に、軽費の利用者から「重度化したらどうしたらよいか。」と意見があり、重度化した人にも対応できるように特養設立に動きました。しかし、厚生労働省より「デイ・サービスを先に作りなさい。」との指示があり、道で5番目のデイ・サービスを設立。見学者が大量に来たことを覚えています。その後、特養の認可が下りて、特養・デイの一体型の建物となりました。その後、在宅老人支援センターを国の方針で作りました。介護保険制度後は、デイが多数運営され、最初の利用人数は25名でしたが、利用者が減り、25名→20名に変更。本年度より地域密着に移行したことで、20名→18名に変更となり運営しています。

**4. デイサービス事業の概要(以下、説明資料に基づき説明)**

デイ相談員: 利用定員は18名(要支援、要介護含む)で、12月31日～1月3日以外、利用可能です。利用時間は、10時15分～15時35分(5h～6h)で、料金は食事が1食500円(甚べいさんに提供いただく)、要介護1で1割負担の場合、1回の利用料は641円、入浴した場合50円、サービス提供体制強化加算が6円、処遇改善加算Ⅲが総金額に2.3%乗じた額として加算されます。その他の要介護、要支援については、資料をご覧ください。行事としては、バスハイク、敬老会、ミニレク大会、クリスマス会などを実施、毎月誕生会も行っています。年間行事については、配布資料をご覧ください。1日の流れは、手芸サークル、カラオケサークル、運動・レクリエーションサークル、外出サークルなどから好きなサークルを選んでいただけます。また、体験利用も行っており、体験代として食事代500円で体験いただくことが可能です。

施設長: お弁当については昔は手作りしていたが、お出かけ気分を味わっていただいた方が良いかなというところで甚べいさんに提供いただいている。季節の食材を使っていたり、普段食べない揚げ物、混ぜご飯、赤飯もご提供いただいている。メニューは甚べいさんに一任しており、多少の変更も聞いていただいている。また、ご飯とみそ汁のおかわりも可能にいただいている。

ご利用者家族: 家では楽したいから、混ぜご飯や揚げ物しないので助かっている。

## 5. 意見交換

町内会会長:利用者18名のサービスで職員は何人いるのか?また、外出サークルは何をしているのか?

デイ相談員:職員は全員で9名いて、1日 生活相談員1名、介護職員2名、パート介護職員1~2名、看護師1名です。

施設長:外出サークルでは、普段買い物に行けない人をお連れして、お米やスイカなどの重たいものを職員が運び、自宅に届けています。

町内会会長:利用料金の払い方はどのようになっているか?

デイ相談員:月末締め翌月に集金という形をとっています。利用料金で1割負担だけではなく、2割負担、3割負担と利用料が増えた方がいらっしゃるが、「アポロ園が貰えるお金が増えたわけではないんですよ。」と説明しています。

山手包括:8月から3割負担が出てきています。なお、負担していただくお金は前年の収入から決められています。

デイ相談員:3割負担になり、利用回数が減った利用者があり、担当者会議で今後どのようにするか確認する予定です。

利用者家族:1割~3割の線引き幅が大きすぎて、ぎりぎり3割負担になると何となく納得できない。ボーダーで2割や3割の負担になると負担が大きく大変だ。病院なども3割負担が出てきて、大変になってきた人も出ている。寝たきりは必ずサービスを利用したいのに負担が大きいとサービスを利用しにくい。

施設長:介護給付費分科会で利用料を決めているが、医療系の人達も関わっており、介護の方へお金を回すのはなかなか難しいのではないかと。予算は一緒なので…。

民生委員:震災がありました、避難訓練は何していますか?

デイ相談員:ちょうど明日が避難訓練ですが、特養は今回、夜間想定になっています。消防への通報や連絡確認もします。デイは、サイレン後、サークルを止めてホールに全員集合。職員は各部屋に利用者が残っていないかを確認します。

施設長:どういう震災を想定するかですが、津波はあまり心配していないが、火災が一番想定されるのかなと思って取り組んでいます。今回の震災では電気が止まり、アポロ園では水が出なくて困りました。隣の保育園から水を貰い事なきを得ましたが。あとは、電源を使う調理器具が使えないのが痛かった。特養ではミキサーを使わないと食べれない人がいるので。今回の教訓から、発電機を購入する予定です。

また、今後、地域密着型として、今回の震災を経験した関係で、場所の提供は勿論、光(ランタン等)、暖房の提供を地域の皆さんに渡したいと考えているが、皆さんからの意見を聞きたい。今後、2回目の運営会議にでも話を聞ければありがたい。

民生委員:震災を経験し、今後、意見をまとめて活かしていかなければならない。

事務長:今後、町内会さんと話し合いを持ちたいと考えています。我々が協力できるのは何か。町内会に協力していただけるのは何か、話を進めていきたいと考えています。

山手包括:包括としてもできることとして、10月16日 市民会館で包括主催の市民講演会を開く予定です。その中で、孤立、孤独死など解消するには近隣、専門職が何をすべきか、何ができるかを話す予定です。

民生委員:利用者は市内のどのあたりまでいますか?

デイ相談員:西は澄川、東は住吉や新中野付近が今の範囲です。昔は美園町付近まで行っていました。送迎時間が長くなるため、乗っている利用者が大変になるので最近には行っていません。また、デイの施設が増えてきたので遠方の方が減ったこともあります。

山手包括:あとは、利用者が多様化しており、リハビリしたい、カラオケしたい、ゲームがしたいなど、色々な意見が出て、目的に合ったデイに行く人が多くなりました。

デイ相談員:今後ですが、町内会の会合や行事にも参加したいと考えており、何かあれば、お話を聞かせて下さい。

民生委員：地域ケアの一環として、良いと思います。

デイ相談員：その他、ご質問がないようですので、本日の会議はここまでにさせていただきたいと思います。次回の運営会議ですが、3月末に予定しております。本日は、お忙しいところ、ご協力いただき、ありがとうございました。

日時

平成30年10月5日

議事録署名人

浅野目 聡

北川 宜尚



